○リーダーシップとマネージメント：outstanding

・管理職（management）とオーナーは、保育方法についての明確なビジョンを持っている。彼らは、非常に前向きに考えており、すでに園で実践されている質の高い保育と教育をさらに発展させるための継続的な計画を持っている。園の全体的な理念は個々の子どものニーズに対する保育を基本としており、園のすべての側面は子ども主導である。職員は高いモチベーションを持っており、熱心で、このよく整備され温かい雰囲気の施設でともに働くことを楽しんでいる。職員は、管理職によって尊重されていると感じており、そのことが常に質の高い保育と教育を提供することを可能にしている。適切な子どもと大人の割合を保つために援護職員が存在するので、職員はオフィスで事務仕事を完成させる時間を確保している。職員は、新しい方針や、一般的な仕事の実践を話し合うために、また、子どもの活動と施設の日々の運営の両方についてのアイディアを共有するために定期的に会合を持っている。職員の集まりは、教育の質をモニターするためにも用いられる。マネージャーは、職員とすべての計画と仕事について再検討する。彼らは、活動をどのように評価してきているか、子どもがどのような進歩を遂げているかを検討する。

・職員の専門性と個人としての発達は、非常に重要なものであるとみなされている。子どもたちから離れる時間を午前とランチタイムと午後に持っており、リフレッシュして切望して仕事に戻れる。彼らは、同僚間での保育参観（peer observation）に参加し、同僚の仕事にフィードバックすることができる。評価システムは適切であり、すべての職員が現状について考え、将来に向けてトレーニングや関心領域を発達させることができる。すべての職員は園の実践を評価する積極的な役割を担っており、Ofstedの自己評価フォームを用いて、数ヶ月にわたる発達と進歩をプロットしている。

・職員と管理職は、将来に向けた明確な計画を持っている。計画は、外のプレイエリアを発展させること、人数が増えるのに伴い園内のすべての部屋を活用すること、3歳未満の子どもたちに対する計画をさらに発展させることを含む。

・全体として子どものニーズは満たされている。

○過去の評価以来の不十分な点

・登録以来報告すべき不十分な点はない。

・保護者からの苦情の記録については、保管することが求められる。

◈ 将来の改善のためになすべきこと

○保育の質と水準

・保育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

○教育の質と水準

・教育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

施設Ⅲ（ Primary School）

本校の全体的な有効性に関する評価結果：good

・Langham Primaryはよい学校であるという校長（headteacher）とgovernorsの評価は正当なものである。質問紙に答えた保護者は口をそろえて学校を支持している。ある保護者は、「私たちの子どもたちは、とても支持的でポジティブでよくマネージされた環境で学習し、能力を伸ばすことができ、幸せです」と書いた。このコメントは、大部分の側面が並（satisfactory）であ

った前回の評価から、全面的な改善をした評価結果とポジティブな状況を反映している。

・本校における教育効果は、良好（good）であり、いくつかの傑出した特徴を伴っている。資源をスキルフルに配分し、すべての生徒への学習の機会を最大化しているため、コストパフォーマンスがよい。主に校長の優れたリーダーシップとマネージメントが、この改善を引き出したのである。彼は、強固なチームワークを発展させ、すべての職員、生徒、保護者の重要な決定への参加を保証し、学校が改善していることを確認するために適切な優先事項によく焦点化してきた。学校全体として成果はよい。

・すばらしい環境（provision）のおかげで、子どもたちは1年生の歓迎会において好調なスタートを切る。彼らはすぐに落ち着き、2週間後には、自信に満ちて、安心しており、喜んで教室のルーティンや何をするべきかについて説明する。

・他のすべてのクラスにおいても生徒はよく達成を継続している。これは、指導が継続的に良好であり、学習の困難を持つ子どもたちをよく支援し、生徒に対するケア、指導、支援がすばらしいことによる。加えて、多くの優れた才能を持つ生徒に対する学校の provision が効果的で、彼らの進歩も良好である。その効果として、生徒たちはよく進歩している。結果として、6年生に達するまでに、英語、算数、理科の水準が非常に高くなる。

・ただし、2年生と6年生の両方において、読みと書きの水準の間に格差がある。11歳児に対する2006年の英語のテスト結果は非常に高い水準であるが、書きの水準は読みの水準よりも遅れている。生徒の情報およびコミュニケーションテクノロジー（ICT）における成績は、英語、算数、理科の成績よりは低いものの、国の定める期待値に並んでいる。学校は、ICTの利用を以前より容易にするハードウェアを導入した。

・生徒の個々の発達は傑出している。行動はすばらしく、出席レベルは高く、道徳的・社会的発達は非常に優れており、学習において成長している。彼らは学校を愛し、学校を非常に誇りに思っている。

○さらなる改善のために学校がなすべきこと

・ICTの水準をあげる

・書きの水準を上げる

◆達成状況（achivement）と水準：good

・4つのクラスそれぞれにおける生徒の達成状況はよい。読み、書き、算数のスキルが重視され、2年生と6年生の終わりの書きの水準が読みの水準をわずかに下回っているものの、生徒はこれらの領域においてよく達成している。生徒の成績と全国テストの結果の両方に進歩があらわれている。2年生の終わりにおいて水準は平均を上回り、6年生に達するまでに特に高い水準に達している。たとえば、2006年には、すべての生徒が理科においてより高いレベルに達し、ほぼすべての生徒が数学においてより高いレベルに達した。前回の評価以来、水準は年々伸びており、設定されたチャレンジングな目標は毎年達せられている。しかし、ICTの水準は、他の科目に遅れている。

▼個人の発達と福祉：outstanding

・生徒個人の発達に対し学校が優れた支援を行っていることは、生徒が学校生活のすべての側面に対し生き生きとしたポジティブな態度を示していることにあらわれている。彼らの行動は優れており、傑出した社会的、道徳的発達を反映している。大人が生徒に耳を傾けるため、彼らの考えが学校の委員会（評議会 council）と授業の両方に

おいて重視されていることを認識している。彼らは責任を負っていることに喜びを感じている。

・学校は健康に関するトピックにさまざまな方法でアプローチし、健康学校賞を得ており、生徒は健康に関する問題についてよく理解している。彼らは理科の授業で栄養について学び、健康的な食事がよく促され、授業や遊びの時間に運動する機会がたくさんある。

・生徒は、安全に注意する必要があることについてよく理解している。たとえば、暑い太陽の下でなぜ帽子をかぶる必要があるのかについて説明することができる。

・生徒が実用的な認識（economic awareness）を獲得していることは、読み書きのスキルや算数のスキルや協同で作業するときにあらわれている。しかし、彼らのICTスキルは、限定されたものである。

◆provisionの質

▼指導と学習：good

施設Ⅳ（Pre School）

◆本調査結果におけるこの施設の保育および教育の質と水準に関する総合評価 good

◆保育環境（provision）の領域別評価およびその根拠

○子どもの健康への援助：satisfactory

・子どもたちは、健康な食事に関するプログラムに参加しており、食事を多様にするさまざまな新しい食べ物を試してみるよう促される。果物や野菜が定期的に提供され、子どもたちは試食の活動に関わったり、ときには自分たちのおやつの準備に関わる。職員は、子どもたちのお腹がすかないよう、おやつのタイミングを計画するときに子どもたちのニーズを考慮している。また、のどが渇かないように、飲み物はセッションを通して飲むことができる。

・子どもたちは、衛生的であることの重要性を理解しており、ランチの後に喜んで歯を磨く。彼らは、食事の前に水道で手を洗い、ペットを触った後や汚れる活動（messy activities）の後に手を洗うよう注意を促される。しかし、このとき、手はボールの中で共有の水で洗い、共有のタオルで乾かすため、感染症が広がる原因となりうる。子どもたちが触れることができる何匹かのペットがおり、子どもたちの健康に有害である可能性があるが、保護者からこのことに対する承諾書を得ていない。職員は、キッチン、トイレ、テーブルを清潔に保ち、体液を扱うときには手袋をはめ、おむつを適切に処理している。関連する事務手続きは適切で、施設内で生じたことに関する情報提供が必要な場合には保護者と共有される。すべての職員は一級の援助資格を持っており、アクシデントの際には適切に子どもたちを手当てすることができる。

・室内外における定期的な身体的活動は子どもたちにとってプラスになっている。野外エリアは一部に屋根があり、子どもたちはどんな天候でも走り回ったり新鮮な空気を吸ったりすることができる。微細運動や粗大運動のスキルを発達させ、さまざまな方法で身体を動かす練習をするための幅広い活動が提供されている。

○危険やネグレクトからの保護と安全への援助：good

・子どもたちは、明るく必要なものを完備した環境において保育されている。子どもの高さの家具や取りやすいように保管された材料が適切に配置され、子どもたちは安全に動き回ることができる。メインのプレイエリアは、学習に関する異なる領域に分かれており、子どもたちは領域間を自由に行き来することができ、そのことによって自立が促される。また、何をするか選択することができる。オムツ替えのエリアや休む

ための静かな部屋など、すべての子どものニーズに応じるために適切な設備がある。子どもたちの発達的なニーズは、彼らが使用することのできるさまざまな道具によって満たされている。職員は、子どもたちにバランスの取れた学習機会を提供するため、道具をローテーションしている。

・職員による定期的なリスクの検査などのさまざまな安全対策が行われている。子どもたちが緊急の際に従うべき方法を理解するよう、避難訓練が定期的に行われる。子どもたちは、野外エリアやお手洗いを使用しているときを含み、いつでも監督されている。すべての職員は子どもを守る方法を十分に理解しており、子どもたちは起こりうる虐待からよく守られている。子どもの保護に関する説明が保護者用の掲示板に掲示されており、保護者に関連プロセスや職員の責任についての情報を提供している。

○子どもたちが達成することや楽しむことへの援助：good

・子どもたちは、幅広い活動に楽しんで参加している。低年齢児のニーズが満たされるよう、低年齢児向けに区別して保育計画がなされている。ただし、資金援助を受けている子どもたちが参加する活動から彼らが排除されることはない）。職員の何名かはBirth to Three Mattersのトレーニングに出席したが、これはまだ実行されていない。子どもたちは、愛着や抱っこを求めて職員のところへ行く。職員はこれに応え、子どもたちの情緒的なニーズをよく満たしている。低年齢の子どもたちが園に到着した際に混乱している場合には、職員は子どものニーズに細やかに対応し、彼らが興味を持った活動に落ち着いて取り組むまで多くの配慮をする。職員は、子どもたちとその家族のバックグラウンドをよく把握しており、子どもたちの個別のニーズに効果的に対応することができる。

○幼児教育：good

・教授（teaching）と学習の質はよく、子どもたちは発達のすべての領域においてよく進歩している。これは、すべての職員が計画に関わり、Foundation Stageのすべての領域がカバーされることが保証されていることによる。計画は容易に実行することができるものであり、活動は子どもの学習状況とさらに挑戦しうるところとのギャップに焦点を当てて定期的に評価される。子どもの達成状況は、観察やプロフィールを通して、次の段階への足がかりとのつながりが見出される。職員はすべての子どもたちの能力を把握しており、子どもたちの学習を援助するために実践を適宜状況に応じて変化させる。

・子どもたちはセッションの間中遊びに熱中している。彼らは自信を持ち自立して自分の材料を選び、職員や仲間と良い関係を築いている。子どもたちは、家庭での生活が異なることについてよく理解しており、小グループや大グループでの活動の際にこのことについてよく話す。彼らは感情について非常によく理解しており、言葉やプロップ（prop）を用いてはっきりと表現することができる。子どもたちの注意はよく続き、高いレベルの集中を示す。彼らは、特に、歌ったりお話を聞いたりするようなグループ全体での活動の際には、長時間座って話を聞いたり参加したりすることができる。子どもたちは、日ごろから本を選んで職員と一緒に見たりお互いに見たりする。彼らは、熱心に書く練習をしており、多くが判別可能な文字を書き、音と対応させることができる。大部分の子どもたちは、数字を認識し読むことができ、数学的な言葉や位置に関する言葉をよく理解している。子どもたちは確実に10以上数えることができ、

基本的な計算に参加し始めている。ただし、基本的な計算を伸ばすための学習機会で見逃されているものがある。

・子どもたちは、ペットや栽培活動に参加することを通して、生き物を世話するということについてよく理解している。彼らのITスキルは優れている。日々コンピューターにアクセスし、クリックやドラッグのような基本的な機能を練習している。子どもたちは活動に参加している自分たちの写真を見ることを楽しみ、過去の出来事を思い出したり、これから何をしようとしているかを話したりしている。子どもたちは、よく計画された活動やグループへの訪問者を通してより広い世界について学習する。

・子どもたちは、自分で選んだ製作活動（craft activities）を通して自分を表現する。自分の材料を選び、自分自身の想像力によって模型や絵を制作する。彼らは、日ごろから楽器に接し、音楽を通して自分を表現する。彼らは、曲を打ち鳴らすときに、音が大きい、小さい、速い、遅いといったことへの理解を示す。大部分の子どもたちは想像力を駆使するのが上手である。グループはさまざまな年齢や能力の子どもたちが入り混じっており、喜んで長時間子どもたちだけで、あるいは職員とともに遊ぶ。

○子どもたちの積極的な参加への援助：good

・子どもたちの精神的、道徳的、社会的、文化的発達は、子どもたちが自分自身や他者や感情について話すことができるよう計画された活動を通して促される。子どもたちは、セッションの間、ルールについて言語的、視覚的に注意を促される。それは、親切にすること、共有すること、話を聞くこと、順番を守ることに関連することである。大グループでの活動において、子どもたちは「話していいのはオウムを持っている人である」ということを知っている。大部分の子どもたちはこの考えを理解することができており、他者の話を熱心に聴き、しばしば話に加わって自分の経験を話す。子どもたちの行動は優れており、職員は褒めたり励ましたりして誇りや所属の感覚を育てている。職員は望ましくない行動に毅然として対応しているため、子どもたちは行動の限度を学んでいる。

・平等性は、共同体における多様性についての子どもの理解を増すような provision に反映されている。現在、職員は行動や言葉の問題を抱える子どもたちを援助している。こうした子どもたちは十分にグループに統合されている。職員は他の専門家と協働しており、こうした子どもたちの進歩を助けるのに必要な更なる援助について認識している。

・保護者とのパートナーシップは良好であり、職員は子どもの発達のすべてのステップについて保護者に十分に情報を提供している。保護者は、方針や手続きを玄関ホールで見ることができる。また、室内外の掲示板によって、保護者は子どもたちが何をしているかについて情報を得ることができる。各セッションの始まりと終わりに、保護者は職員と子どもたちのニーズ、進歩、その他のあらゆる関心事について話し合うことができる。子どもたちが本を家に持ち帰り保護者と一緒に読むことで保護者と学習を共有することが推奨されている。保護者がグループに来ることはいつでも歓迎される。

○組織：good

・provision の質は、全般的に子どもたちのニーズが満たされていることを保証している。新任研修（induction training）、方針、手続きが実行され、子どもたちへの保育と教育を最大化するスムーズな経営を保証している。職員は、個別のファイルを持って

いる。そこには、グループ内での個々の役割と責任だけでなく、個人として発達し保育を高めるためのトレーニングプログラムや評価が詳述されている。結果として、リーダーシップとマネージメントは良好である。

・職員は、子どもの進歩を援助するためのFondation StageのCurriculum Guidanceについてよく理解している。多くの職員は、適切な保育の資格を持っており、保育に関する問題についてよく理解することができる。必要な書類はすべて適所に配置されており、よく整理され、確実に保管され、適切に保護者と共有されている。職員は継続するトレーニングに意欲的に参加している。また、園をさらに改善するための評価計画（accreditation scheme）を開始したところである。

○過去の評価以来の改善点：適用なし

○過去の評価以来の苦情（complaints）

・報告すべき苦情はない。

◈　将来の改善のためになすべきこと

○保育の質と水準

・子どもたちがペットに触れることを許可する承諾書を保護者から得る。

・清潔な水道水で手を洗うことに関する衛生上の手続きに従う。

○教育の質と水準

・チャンスを最大限に活用することによって、子どもたちの基本的な計算の理解を向上させる。

施設Ⅴ（Centre）

本調査結果におけるこの施設の保育の質に関する評価

good

◈この施設における保育のよい点

・Centreは、質のよい保育を提供している。

・すべての職員は高度な資格を持っており、個々の子どものニーズや興味に対応することができる。園児のニーズに焦点が当てられ、そのことが園の計画にも反映されている。子どもたちの発達のあらゆる領域に影響を与える、意義深い環境が提供されている。資源・設備・活動は、子どもの発達を高め、学習を広げるために使われている。職員は子どもたちとよく相互作用し、子どもたちは自信を持って環境を探索することができる。また、子どもたちは環境の中で主導権を握り、試してみたりすることができる。

・子どもたちは屋内外の資源を使用することができる。職員は子どもに対する比率（ratios）を認識しており、これを維持するためにチームとして効果的に働いている。適切な方針と手順によって日々の保育の運営が支えられている。

・子どもたちは職員によってよく保育されている。職員は健康や安全面の問題についてよく理解しており、包括的なリスクの検査が行われている。特別なニーズを持つ子どもたちへの非常に優れた支援が提供されている。彼らは活動において完全に統合されている。

・職員は、子どもたちの言うことに耳を傾け、話をし、質問をすることによって、発達や学習を援助している。職員は、さまざまな子どもの行動をマネージすることができ、子どもたちは学習を通して自分たちで問題を解決するよう励まされる。

・保護者は、施設や、子どもの興味や発達的な進歩についての非常によい情報を受け取っている。園にはファミリーワーカーが存在し、子どもが入園する前に家庭を訪れる。保護者は日常的にファミリーワーカーと話をすることができ、子どもの記録を自由に

見ることができる。

◆前回の評価以来改善された点

・前回の評価においては、どんな対策も提起されなかったが、建築計画が 2002 年 6 月に完成し、新たな屋外のプレイエリア、新しいソフトプレイルーム、感覚ルーム（スヌーズレン（snoezelen））、水遊びの部屋が提供された。また、ロールプレイエリアと合体したメインのナーサリールームに加え、科学と発見のエリア、ビーチエリア、図書館、観察タワーが提供されている。

◆ 特筆すべき特長（good）

・すべての職員は子どもの個別のニーズをよく認識しており、子どもとうまくかかわることができ、学習を高めたり広げたりする経験を提供している。子どもたちは、大人からの最小限の指導と最大限の援助のもとに選択をするよう励まされる。
（評価基準 3：保育・学習・遊び）

・使いやすく刺激的な環境を構成し、あらゆる領域における子どもの発達を促進するさまざまな活動・設備・おもちゃ・家具を提供する物理的環境を、子どもたちは利用することができる。（評価基準４：物理的環境）

・子どもの行動をマネージメントする方法は非常に優れている。職員は、ポジティブなロールモデルとして行動し、子どもたちのさまざまな行動を効果的にマネージしている。（評価基準 11：行動）

・保護者・carer とのパートナーシップは非常に良好である。ファミリーワーカーシステムにより、子どもたちのニーズと進歩について保護者・carer は十分に相談できることが保証されている。（評価基準 12：保護者とのパートナーシップ）

◆特筆すべき特長（outstanding）

・多くの想像的で刺激的な学習機会を提供するよう選ばれたさまざまな資源が提供されている。発見エリアで利用可能な資源を用いて自分でやりがいのある課題を作り、メインのプレイエリアで使えるようにすることができる。（評価基準 3：保育・学習・遊び）

◆改善すべき点および次回調査に向けての課題

・毎日の職員の出勤状況を記録するためのシステムを作る。（評価基準 2：組織）

・保護者がお迎えをすることができないとき、子どもが迷子になったときの対応手順に関する書類を作成する。（評価基準 14：書類）

・職員やボランティアによる虐待の申し立てや、施設内で起きていると申し立てられた虐待についての情報が提供される規制機関を確保する。（評価基準 2：組織）

＜3・4 歳児のためのナーサリーの教育に関する評価＞

◆本施設のナーサリーにおける教育の効果的な点

・Pen Green は、フレンドリーで刺激的な環境において非常に優れた教育プログラムを提供している。効果的な指導・計画・評価が、幼児期の学習目標に向けた子どもたちの進歩を助けている。子どもたちは自立しており自信に満ちて学んでいる。人格的・社会的・情緒的発達の成長がよく促されており、カリキュラムのすべての領域において非常に優れた進歩が見られる。

・指導の質は非常によい。新任あるいは経験の少ない教師が見て学ぶことのできるロールモデルが常に存在する。教師は、子どもたちの個別のニーズによく対応している。全面的で効率的な計画と評価のシステムは、優れた枠組みを提供するものであり、

その中で子どもたちは、よく進歩し、強固なアイデンティティの感覚を発達させている。職員はチームとして調和的に働いており、学習を促進する刺激的でバランスの取れた活動を提供している。園の重要な強みは、職員のスキルフルな相互作用であり、子どもたちを会話に参加させ、援助し、導き、学習の意欲を引き出す。経済援助を受けている特別な教育ニーズを持つ子どもは存在しないが、効果的なサポートシステムが存在する。

・リーダーシップとマネージメントは非常に優れている。優れた幼児期の実践が共有されており、発達の領域が認識され取り組まれている。職員をスーパーバイズする効果的なシステムが存在し、トレーニングのニーズが確認され対応がなされる。これは、活動と子どもの学習を効率的で効果的にモニターし評価するシステムとともに、園を成功させている。

・保護者・carer とのパートナーシップは非常に良好であり、援助や相互作用は質が高い。ファミリーワーカーは、保護者・carer と親密に連携し、保護者・carer が子どもの学習について理解するのを援助している。家庭での観察は職員にフィードバックされる。保護者のために、カリキュラムについて文章や絵でかかれた情報が存在する。保護者が子どもの学習にかかわることが積極的に推奨されている。

◆特筆すべき特長

・子どもたちの、人格的・社会的・情緒的発達はすばらしく、園の強みである。

・職員は保護者や carer と非常によくパートナーシップをとり、優れた連携と支援のシステムを形成している。

・子どもたちは自信に満ち、自立しており、活動に興味やモチベーションを持っている。

・行動は非常に優れている。子どもたちは、課題において、学習に積極的に取り組んでいる。

・職員は、幼児期の学習目標を明確に理解しているため、個々の子どもの興味と努力を引き出し、維持するような活動を提供するカリキュラムを計画している。

・強いリーダーシップ（指導部）が、健全な幼児期という理念、子ども中心の原則を推進している。

・職員の発達、トレーニング、質を保証する仕組みへの参加が第一に考えられており、継続的な改善が保証されている。

・職員は空間や資源を効果的に利用し、刺激的な物理的環境において子どもの学習を発達させ広げている。

◆改善すべき点

・より大きなグループで音楽に触れ、経験すること

・すべての観察の日付を特定すること(Dating of ALL observations)

◆前回の評価以来改善した点

・アクションプランは実行されている。

・室外の発見エリア、ビーチエリア、観察タワー、気象観測所、ソフトプレイルーム、水遊びルーム、感覚ルーム（スヌーズレン）が新たに建設され、環境が改善した。

◆評価の結果

・provision は基準を満たしており、質が高い。子どもたちは、幼児期の学習目標に向けて非常に優れた進歩をしている。次回の評価は 3 から 4 年以内に行われる。

◆園が次になすべきこと

報告すべき重要な弱点はないが、下記を改善することを検討するべきである：

・子どもの進歩に関するすべての記録の日付

を特定する。

・さらに優れた創造的な provision を高めるため、音楽の専門家を採用する。

＜各判断基準（judgements）の概要＞

◆人格的・社会的・情緒的発達：Very Good

・子どもたちは、この領域において非常によい進歩を示している。彼らは、自信を持ってニーズを表現し、他者に対する思いやりや関心を示している。彼らは、お互いにまた大人とよくかかわっている。彼らは活動を自立的に学び、選択し、実行するよう動機づけられている。彼らはよい行動を示し、よいロールモデルを観察している。彼らは強固なアイデンティティの感覚と自尊心を発達させている。

◆コミュニケーション、言語、リテラシィ：Very Good

・多くの子どもたちは、自信をもって流暢に話をする。彼らはニーズをよく表現し、交渉することを学んでいる。彼らは大人や仲間との会話に容易に参加している。彼らの提案は大人によって評価され傾聴されている。子どもたちはさまざまな目的のために印をつけたり書いたりしている。彼らは有意義なごっこ遊びに参加する機会をもち、自分たちの物語を完全に作り上げている。彼らはお話の時間に読むことや聞くことに関する約束事を学習している。

◆数学的発達：Very Good

・多くの子どもたちは 10 まで確実に数えることができる。彼らはごっこ遊び、歌の時間、おやつの時間などの日常的な状況において、簡単な数学的問題を解決するために数を認識し利用している。子どもたちは、自分自身や問題解決のために物事を考え抜く。子どもたちの足し算や引き算の理解の発達のために、一対一の活動が利用されている。子どもたちは、形や位置や大きさを比較するのにことばをよく使用している。

◆世界に関する知識や理解：Very Good

・子どもたちは、上手に自分たちの環境について探索し、解明している。彼らはこの目的のために、発見エリアのような資源をとことん楽しんだり利用したりしている。目的を持ってさまざまな自然物や人工物を利用して構成することが推奨されている。子どもたちは、学習の助けとなるテクノロジーを上手に利用している。子どもたちは、部屋や特別な本の中でたくさんの写真を見ることができ、これは時間や個人の歴史の感覚を提供するものである。

◆身体的発達：Very Good

・子どもたちの身体的発達は非常に良好である。さまざまな設備や大型の器具を効果的に用いて、大小の動きの発達が促される。空間がよく利用され、子どもたちは自己と他者の気づきを伴いながら自発的かつ安全に動いている。彼らは、食事や衛生に関するよい習慣を理解している。

◆創造性の発達：Very Good

・子どもたちは、創造性の発達において非常によく進歩している。彼らは、さまざまなメディアによって色、手触り、形を探求する機会を与えられている。彼らは、同じテーマにかかわりながら、協同して、また想像的に遊ぶ。子どもたちは音楽やダンスを楽しみ、歌に参加する。子どもたちはたとえばスヌーズレンや発見エリアにおいて、すべての感覚を用いて探求したり学習したりしている。

・子どもの精神的・道徳的・社会的・文化的発達は適切に促されている。

③イギリスにおける第三者評価の実態に関するまとめと考察

◆　第三者評価に対するイギリスの保育・幼児教育施設の対応の特

徴

イギリスで訪問した５つの施設で共通にみられた第三者評価に対する対応は、国の基準カリキュラムであるFondation Stageのすべての面についての一覧表を職員がいつでも見られるように、掲示版などに掲示していたことである。

このことは日本でいえば、保育指針や幼稚園教育要領を表にして掲示しておくのと同じ意味である。このことによって、国のFondation Stageの全体像がいつでも全職員によって共通理解されることになる。またこうした表を掲示することで、全職員に理解できるように努力しているとみなされ
第三者評価においても、「幼児教育」の項目
について評価が高くなるともいえる。

またどの園でも、週案などが各クラスごとに掲示されていた。中には日々の活動を掲示している園もあった。日本ではこうした日々の指導計画は公表しないのが普通である。しかしイギリスでは、どの子に対してどのような指導をしているのかを、保護者も含めて情報公開することが求められていることがわかる。

さらに、保育が終了してからどの子がどのような活動に取り組んでいたかを、チェックリスト表や個別記録表などに書き込んでいた。これは日本でいえば、個人記録を毎日書いていることに相当する。こうした活動への個別の取り組みをチェックすることで、個々の成長を判断していくという方法がイギリスでは用いられていることがわかった。またこうした記録がないと第三者評価が低くなるものと思われる。

このように第三者評価されることによりどの施設においても、基準カリキュラム・計画・記録がいつでも連続性をもって展開されていることや、いつでも必要なときにそれを公開することができるようにしていることが、現在のイギリスの保育・幼児教育施設を特徴づけているといえる。

◆ 第三者評価において評価の高い保育・幼児教育施設の共通点

イギリスで訪問した保育・幼児教育施設のうちで、第三者評価での最も高い評価であるOutstandingと判定されていた２つのKindergardenには、次のような共通した特徴がみられた。なおこの２園は、いずれも乳児から就学前までの乳幼児を保育しており、日本での保育所と幼稚園が一体化した総合施設であるといえる。

第１は、環境的な質の高さと快適さが保障されていることである。園舎の周りは塀や木の柵などで仕切られており、安全性が確保されていた。また園舎内は落ち着いた色調であり、廊下も広々していてソファーや掲示板、植栽などが配置されていた。家具や教材は安全で高品質なものであり、保育室内に整理され、使いやすく配置されていた。また子どもたちの作品や様々な絵や図が、廊下や保育室に見やすく掲げられていた。年長児の保育室の絵や図には、単語が添えられており、文字と対応できるように配慮されていた。いずれの施設も家庭的な雰囲気が強く、いわゆる日本の学校のような雰囲気ではなかつた。

第２は、園長のリーダーシップの質の高さである。２園とも女性の園長であったが、性格は明るくて聡明であり、てきぱきと職員に指示をだしていた。また職員の信頼が厚く、職員はそれぞれの役割を自覚し、細やかに保育を展開していた。保護者の信頼も得ていて、保護者と楽しそうに会話していた。こうした園長のリーダーシップの質の高さは、日本においても期待されているが、乳児から幼児までを保育する総合施設

では、明るさとこまやかさと全ての年齢の子どもたちの発達を理解している聡明さが求められているといえよう。

第３には、活動のリズムが動と静の調和がとれており、個々の活動が保障されていることである。この２園においては、各年齢の子どもたちの姿が落ち着いていて、訪問中にトラブルは全く見られなかった。各コーナーは、子どもたちが取り組みやすいような準備がなされており、それぞれの関心に基づいて充実した活動を展開していた。

こうした活動が展開されるためには、保育室の環境構成がよく考えられていることと、十分な教材や教具が備えられていることが求めている。さらにはそうした環境構成が行える保育者の質の高さも求められる。

こうしたことから、イギリスの第三者評価で高い評価を得るためには、物的・人的な質の高さが求められていることがわかる。

◆ イギリスの総合施設における第三者評価の問題点

われわれが訪問した５つの保育・幼児教育施設のうち、複合施設としての地域支援センターは第三者評価が Satisfactry と低かった。そこにはイギリスの評価における次のような問題点が浮かび上がってくる。

第１に、Outstanding と高く評価された２つの施設はいずれも７０名前後の園児数で規模が大きくはなかった。そのために園長の目が行き届き、職員や園児に対する理解もできていたし、強いリーダーシップを発揮することもできていた。

それに対して地域支援センターは複合施設であり、保育所施設と幼稚園施設、さらには家庭支援施設や発達支援施設、研究所など、多様な施設が複合的に配置されていて規模が大きいために、いわゆる家庭的な雰囲気よりも大きな学校か施設という雰囲気が強かった。またセンターではそれぞれの施設の責任者がリーダー性を有していて、合議的に運営していた。こうした運営の仕方が、イギリスの第三者評価では、低く評価されている可能性がある。

第２に、家庭的な雰囲気と落ち着きが感じられた背景には、子どもたちが無邪気に遊ぶ姿は少なくて、ゆったりと過ごしながら絵本を見たり、パズルをしたり、絵を描いたり、ゲームをするなどして過ごす姿が多く見られた。

子どもたちが水や泥などで遊ぶ姿は、低く評価されたセンターでしか見ることができなかった。そのセンターは、起伏のある広い園庭を有しており、子どもたちが隠れられる小屋や遊べる固定遊具がよく考えられて配置されていた。また水遊びのできる人工的な小川や、中庭には自由に遊べる大きな砂場が設置されていた。子どもたちは廊下を思い切り走り回り、日本の幼児たちと同じようにスーパーマンごっこをして遊んでいた。

私たち訪問者は、このセンターの環境の方が日本の保育園や幼稚園の環境と類似している感じたが、このように遊びを展開しながら子どもたちが友だちとにぎやかに過ごす環境では評価が低くなされるのだろうか。今回の調査だけではこの点については明らかにできなかった。

第３に、日本と比べると集団活動が少ないことである。どの園でもコーナーごとに課題意識をもって取り組む活動が設定してあり個別に関心のある課題に取り組む姿が多く見られた。

こうした姿はおそらくイギリスの保育では長年の伝統から来ているものなのであろう。第三者評価をするときには、判断の根拠としてその国の一般的な保育のイメージが強く影響してくることがわかる。

（２）評価システムに関する提案

①自己評価を基盤とする評価システム

保育は、子どもの実態把握に始まり、計画・

実践・省察、評価の繰り返しであり、このプロセスを通して保育の改善が図られ、質が高まっていくことに繋がる。保育は、子どもと保育者、保護者等保育に関わる者の相互作用を通して創造していく営みである。一人ひとりの職員の力量・資質が問われ、その職員の力が結集することにより、組織としての質が高まると考えられる。

図５で示すように、「Plan-Do-Check-Act」を日常的な保育実践を通して継続することが保育の質の向上と、就学前の保育・教育を担う施設の組織力を強化していくために必須のものと言える。その際、個々の自己評価と施設内だけの「Plan-Do-Check-Act」ではなく、自己点検を外部評価に繋げていくことが重要である。補章でも示されるように、　自己評価は、保育実践を自ら、主体的に振り返るという大きな意義がある一方で、問題が存在していても認識できず、見逃してしまう、あるいは問題の存在は意識しても、解決に向けて責任の追求や人間関係の対立等を恐れて、形式的な評価になり、徹底した対応を避ける傾向等の課題がある。

従って、評価は、自己評価・自己点検と外部評価の適切な循環が何よりも必要な要件である。本研究において提示する、認定こども園等幼保合同保育実施施設における評価システムは、図６に示すように、「自己評価を基盤とする自己変容を視野に入れた評価基準・評価システム」である。施設内で一人ひとりの保育者・給食担当者等職員と施設長による自己評価を基盤とし、外部評価につなげるシステムである。自己評価を行う際、園内研修の場を活用して、自らの保育実践や取り組み等について、同僚や施設長、ときには、研究者等外部の専門家等も交えて、語り合うことの重要性が本調査により明らかとなった。また、評価を継続し、質の向上に向けて改善を積み重ねていくために、１年を３期（施設や職員の状況により、２期に変更する等柔軟に対応）に分け、それぞれの課題に向けて取り組み、自己変容していくことを尊重したシステムとした。

施設長は、園内研修に適宜参加しつつ、一人ひとりの職員の自己評価を総合的に判断し、園としての評価を行うこととなる。ここでも、園内において、施設長と職員とが、評価基準という共通の事項を、保育実践等具体的な取り組みを通して、省察し、理解しあうことが重要である。このやりとりを通して、施設の理念や保育目標と日常の保育実践とが繋がり、職員一人ひとりが、施設という組織体の一員としての認識が強化されると考える。

本研究の対象である。認定こども園等幼保合同保育施設において、既存の保育所・幼稚園以上に、組織としての力量を高めていくことが求められる。これは、言うまでもなく、二元体制のもとで、子育て支援が必須の機能となる等多様性・柔軟性を求められる施設にとって、今までの保育所・幼稚園で積み上げてきた文化をもちつつ、両者のメリットを活かし、新たな施設を構築していくためには、施設長のリーダー湿布のもと、職員一人ひとりが、組織体を構成する一員として、人間性、専門性を高め、組織としての力利用を高めるためには、具体的な取り組みが必要である。そのための有効な方法の一つが、本研究が提示する評価基準と評価システムである。

図７で示すように、園内研修を活用しての自己評価が、外部評価、公表へと繋がり、評価が客観的に、かつ、具体性をもって利用者や地域住民等に施設の情報として提供されることの意義は大きい。

ここでは、外部評価を「自己評価の適切性を客観的に評価するもの、すなわち、」と定義し、第三者評価を包含するものとする。外部評価で重要なことは、「当事者性（日頃からその施設のことをよく理解しているということ）・専門性（子どもの育ち、保育、子育て

支援等への理解を持っていること）・継続性（長期的な見通しをもって、絶えず改善を重ねていくということ）」である。こうした、自己評価と外部評価は、一回で完結するのではなく、循環性が求められ、保育に関わる施設長や職員の意欲の向上を促進し、また、公表により、利用者はじめ様々な人との関係の広がりと深まりにより、保育・教育を提供する側、受ける側という関係から、相互性のある、参画型の保育を構築していくことに繋げていくことが必要である。

評価結果は、他者・他園との比較が目的ではなく、保育者、施設長の自己変容・成長に主眼をおき、単純なランクづけにならないようにし、「子どもの最善の利益を第一義」にした質の確保された保育・子育て支援を行っていくための、評価のシステム、公表が必須である。公表にあたっては、保育所等で実施されている第三者評価や、本稿で検討したイギリスのOfstedにおいても、a，b，c等の段階的評価が示されている。このような公表は、わかりやすいというメリットはあるが、保育・教育という営みを数値化することの難しさは言うまでもないことである。

そこで、本研究では、自己評価と外部評価を実査しするプロセスでは、1年間を3期(原則）に分け、6段階で評価する等、きめ細やかな評価をするが、公表は、「評価の結果」で示すように、その施設のよさ、独自性を中心とした「特徴」、より質を高めていくための「課題」、「総合所見」、「園からのコメント」で構成され、より具体的な記述にするものを提言する。

Ofstedのホームページで公表された内容を紹介したように、それぞれの施設の状況が具体的にイメージできるようにすることで、利用者の選択に資するということと、更なる質の向上をめざすという評価の目的に合致するものとなるであろう。

②評価基準とその構成等について

本研究の成果として、資料6に示すように、**「保育の質の向上にむけて～自己評価 ①<保育者編>②<施設長編>③<給食担当者編>を策定した。それぞれの冊子には、「<評価の目的><本冊子の構成><自己評価をするにあたって>」**が記載されている。2年間の本研究の結果、評価基準が確定した。

・本研究での検討から、評価基準は、「改善への観点」としてとらえる。

・最低限保障されるべき内容－基本的な項目と園独自の良さを引き出す内容－特徴・個性に関するものとで構成される。

・認定こども園等幼保合同保育施設の機能の多様性・総合性・柔軟性を重視する。

・調査の結果を活かし、全体構成が就学前の保育・教育の基本である環境を通して行う保育の実践－さまざまな保育への保育者の援助のあり方－それらを支える運営管理という位置付けとなっている。

前述したように、評価の基本である一人ひとりの職員が、自ら、主体的に取り組む姿勢や実践を省察し、自己覚知のもとに、課題を明確化するために、評価は6段階とした。数値化することの困難な保育・教育に関わる内容、運営管理に関して6段階をどのようにさだめるかについて、多様な角度から検討した結果、以下のような結論とした。

評価は、できていないこと、問題探しが目的ではない。また、評価により意欲が向上することが目的であることからも「できている（すべて・よく・かなり・まあまあ・少しは－100・80・60・40・20%）・できていない（0%）」という考え方とした。前述の自己評価の冊子には以下のように6段階を説明している。(保育者編について示す)

保育者

1　現在、全く取り組んでいないもしくは全く意識していない状況を示しています。

2　まだ十分ではないが、意識して取り組んでいるあるいは取り組みはじめた状況を示し

ています。

3　努力して取り組み、具体的な課題や成果が見えはじめた状況を示しています。

4　かなり努力して取り組み、子どもの姿などを通して常に課題や成果を認識している状況を示しています。

5　同僚との話し合いや見直しなどにより常に課題を明確に把握して、自信を持って取り組んでいると言える状況を示しています。

6　完璧に行っており、全く問題はない状況を示しています。

資料7には、3期に分けて評価していく際の具体的な方法を示している。一期は黒、二期は青、三期は赤と色分けし、各事項をラインでつなぐことによって、私の保育・取り組みの全体像と変化が視覚的にとらえることを可能にする。

今後は、パソコンを活用するなど業務の効率化を図り、前述した同僚等との話し合いに時間をかけるようにしたいと考える。

本研究で提示したものは、認定こども園等幼保合同保育実施園に必要とされる事項を包含している。それぞれが、項目の選択、評価時期、方法等工夫しながら取り組むことが望まれる。

Ⅳ　まとめと今後の課題

本研究の2年間の流れが表3に示されている。本研究は「認定こども園」等幼保合同・一体保育施設におけるサービスの質（教育・保育の質）の向上に資するため、評価基準ガイドラインを策定することを目的とするものであった。

認定こども園については、保護者の就労の有無にかかわらず、全ての就学前の子どもに適切な保育・教育の機会を提供するとともに、在宅を含め地域の子育て家庭に対し、必要な相談・支援を行うこと、子育て支援が必須の機能として位置付けられた。既存の施設の枠を超えた認定こども園の機能・役割を踏まえた評価基準ガイドラインを示すことにより、保育・教育内容が適切に評価・点検され、保育・教育内容の質の確保及び向上に資することに繋がる。先行して実施されている保育所等の第三者評価、幼稚園における自己評価、Ofstedの評価実績等からの学びを生かして、法的に定められているから取り組むのではなく、今までにない、新たな施設を「乳幼児の最善の利益を第一義」した構築していくために、また、幼保の枠を超えた共通するシステムを構築していくために、本研究の評価基準・評価システムを今後、実践を通して改善していくことが求められる。

巻頭で石井哲夫先生が「まず子どもの未来を考え、当然ながら前方視野に基づく評価であって欲しい。」と述べられているが、その実現に向けて、評価基準そのもの、システムの更なる検討を継続すること、評価機関、評価者の質の確保、また、施設長のマネージメント力等検討課題が山積している。未来に向けて、前向きな評価は、取り組んでいて楽しくなるものである。子どもと共にする生活、仲間や保護者等と共に語ること、実践者と研究者が共に考えあうことを楽しみながら、検討課題に取り組んでいきたい。

謝辞

本研究を進めるに当たり、多くの施設、行政、研究者の方々にご協力いただいたことに深く感謝申し上げる。特に、平成17年度から1年半対象となった総合施設モデル事業園、さらに、モデル事業園ではないが、幼保合同保育に取り組んでいる4施設の施設長はじめ職員の方々には、多忙な折りに、様々な調査にご協力いただいたことへの感謝の思いは、言葉ではとても言い尽くせない。

参考文献

①増田まゆみ他　就学前の保育・教育を一体とした総合施設のサービスの質に関する研究　平成18年　厚生労働科学研究費補助金　子ども家庭総合研究事業

②増田まゆみ　見えてきた幼保連携の課題～合同保育の研究から
　　平成 17 年　発達 104　ミネルヴァ書房
③窪田真二・木岡一明　　学校評価のしくみをどう創るか　平成 16 年　学陽書房
④群馬県教育委員会　群馬県「学校評価システム」（幼稚園）　平成 17 年
⑤神奈川県私立幼稚園連合会研究部編　チェックリスト（園長用）試案　平成 16 年
⑥全日本私立幼稚園連合会　自己評価・自己点検等検討プロジェクト　自己点検表　教職員編　平成 16 年
⑦大阪府私立幼稚園連盟　教育研究所ワーキンググループ　　自己点検・自己評価チェックリスト　教職員向け／設置者・園長向け　平成 15 年
⑧全国保育士養成協議会　児童福祉施設福祉サービス第三者評価機関（HYK）　平成 14 年度・17 年度保育所版評価基準

図１　保育の質の向上・組織力の強化のためのＰＤＣＡサイクル

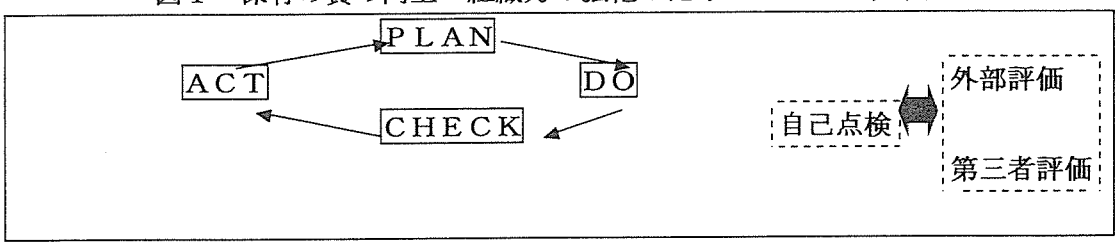


図２　評価システム 自己評価を基盤にした外部評価

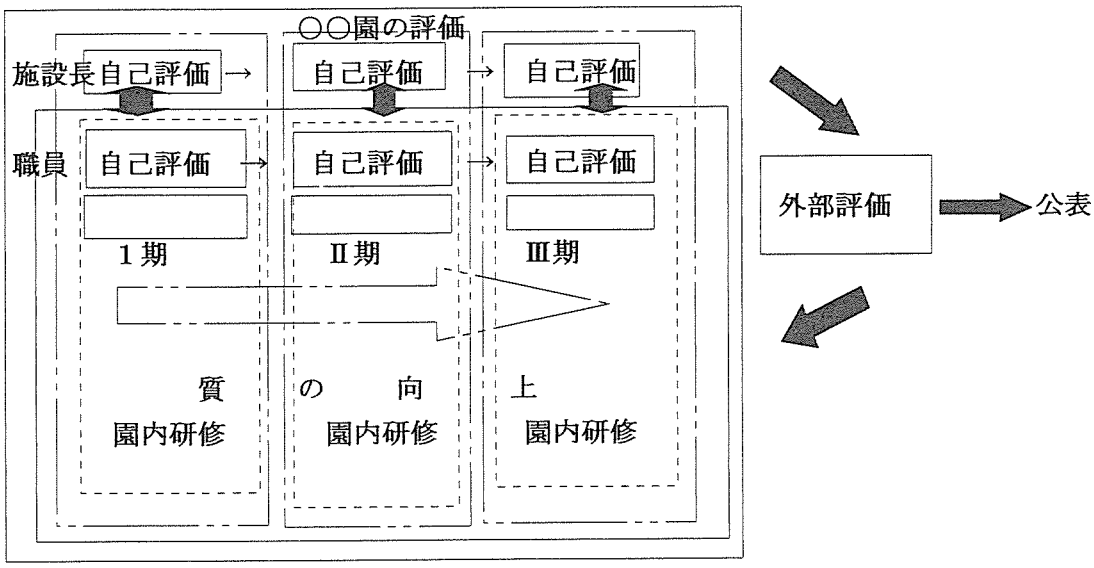
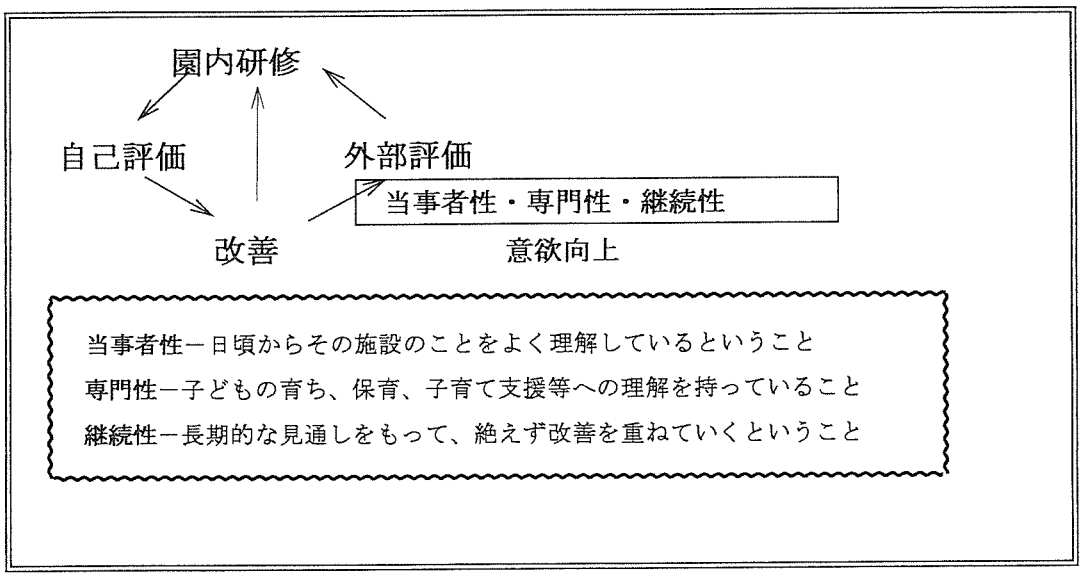


図３　園内研修と外部評価



〔 評 価 の 結 果 〕

1 特 徴

Ⅰ－1	子どもの発達援助 子どもの保育環境と生活 室内・戸外の環境 生活－食事 生活－排泄・着脱・休息 生活－健康管理	
Ⅰ－2	子どもの発達援助 保育のプロセスと保育者の役割 保育の計画 環境構成と子どもの活動 保育者の援助 記録・評価 乳児保育 障害児保育・長時間保育	
Ⅱ	子育て支援 保護者のニーズに応ずる支援(在園児) 地域の子育て支援 地域や関係機関との連携	

Ⅲ	運営管理 組織のあり方 研究・研修 人権 安全・事故防止 保護者への対応	

問題点・課題は「特徴」欄には入れず、「課題」欄に記入

2 課題

3 総合所見

４　園からのコメント

本研究における一連の調査の流れと結果の概略

〔調査方法〕　〔結果〕

2005年度　総合施設モデル事業実施施設の実態把握に基づく評価基準案の策定とその検討

＜サービス、保育・教育の内容等に関する実態の把握①＞
総合施設モデル事業実施施設（35施設）へのアンケート調査

①　設立者による理念（子どもの最善の利益）は共通している。
②　総合施設の機能としては、「親の就労の有無等で区別しない保育・教育の機会の提供」が最も多く、次に「子育てに関する相談・助言」など子育て支援としている施設が多い。
③　一貫した保育の計画作成や幼・保合同の保育に取り組んでいる施設は60％台であり、十分ではない。
④　職員会議や研修が幼・保合同で行われている割合は50％から60％程度であり、十分ではない。

＜サービス、保育・教育の内容等に関する実態の把握②＞
総合施設モデル事業実施施設（運営主体・運営形態・定員規模・立地条件を考慮して10施設をタイプ別に抽出）への観察およびヒアリング調査

【総合施設の3つの機能が円滑に実施されていくために重要なこと】
①　総合施設としての理念が職員全体に行き渡っていること。そのためには規模の適正性と運営者の資質が問われてくる。
②　理念に基づく一貫した保育・教育の計画があり、それが職員に理解され、日々の保育や職員間の連携などにおいて実際に機能している。
③　子どもの発達援助のためには、3歳未満児や長時間保育の更なる充実が求められてくる。
④　生活や主体的な活動が充実するための保育環境が保障されることが求められる。
⑤　地域に対する積極的な子育て支援をどう展開するかが重要となる。
⑥　小学校との連携をより積極的にすることが求められる。

＜総合施設の評価基準ガイドライン案（第1次案）の策定＞
先行実施されている保育所等福祉サービスの第三者評価評価基準や幼稚園自己評価評価基準等を参考に第1次案を作成

【評価の主な観点】
①　総合施設の理念が明文化されており、研修や説明会を通して職員や利用者等に周知されている。
②　保育所・幼稚園が連携して保育指針・教育要領に基づき一貫性のある保育課程を編成している。
③　地域の多様な状況の子ども達を援助するために、登園時間・食事・休息・健康状態など一人一人に応じた支援体制が整備されている。
④　保育所・幼稚園・子育て支援に通う子ども達が、それぞれの生活のリズムを大切にされながら、相互に交流し、生活を共にすることができるような環境や保育内容、行事などが重視される。
⑤　地域の様々な人々、学校、施設、機関と連携することにより、情報交換を積極的に行い、相互理解に努め、ネットワーク化を図る。

＜第1次案の検討①＞
ガイドライン案に基づく全モデル事業施設の自己評価および意見収集、ヒアリング実施施設中5施設への訪問調査（一日の保育内容の観察・施設長へのヒアリング）

①総合施設の理念は明文化されているものの、0歳～就学前までの一貫性のある保育課程（保育計画・教育課程）の編成については取り組み中の園が多い。
②保育所・幼稚園それぞれの担当職員の連携と研修体制がまだ不十分である。
③低年齢児への配慮、健康管理、食育指導、感染症対策に園で差がみられる。
④幼児教育に対する多様な考え方が存在し、保育環境や保育者の援助・指導については課題もみられる。
⑤障害児保育や一時保育、地域における子育て支援に対する取り組みがまだ十分とはいえない。